

日本近代社会福祉の次に設定される未来**「社会福祉」から「地域共生社会」への移行**

○ 岡山大学大学院社会文化科学研究科 氏名 樋口淳一郎 (会員番号 05211)

キーワード3つ: 恤救規則 社会福祉 地域共生社会

1. 研究目的

「2025年問題」の危機が叫ばれている。団塊の世代が全員後期高齢者になる2025年において、医療保険福祉等の本格的な人口動態に起因する社会制度の脆弱性の露呈に対する国家的な対策が必要である。

2014年提唱された「消滅可能性都市」から2017年「地域共生社会」の提唱に至るまで、即応的・矢継ぎ早に提出された国家レベルの認識と対策は、実際に有効な認識と対策として成立するか、また、その展開過程において伝統的社会福祉学の観点から、抽出できる本質は何かについて考察する。

2. 研究の視点および方法

本研究は主として、文献探索に依拠して行われる。

学会報告（日本地域福祉学会第30回大会）を中心として、「地域共生社会」の提唱に至る厚生労働省文書を詳細な検討の対象とする。研究の視点は、伝統的な地域福祉の視点から社会福祉原論の中心的な学問的考察の焦点までを適宜活用する。

3. 倫理的配慮

本研究及び抄録は、日本社会福祉学会「研究倫理規定」及び「研究倫理規定にもとづくガイドライン」及び「『社会福祉学』への投稿論文における研究倫理に関する記述について」及び「学会発表に関する注意事項」に照らし作成されている。

また、本口述報告及び当日配布資料において、いかなる利益相反的要素も存在しない。

4. 研究結果

研究の結果、日本近代において社会適合的である社会福祉制度の本質が、日本社会の動態的な構造変化によって、社会適合的ではなくなったことが認識される。その結果、次世代日本社会への移行措置として、社会福祉を代替するものの発想が必要となり、その総合的な呼称が「地域共生社会」であることが、人口動態的な観点の検証によって確認される。

5. 考察

社会福祉は近代社会に適合的語彙である。前近代的段階においては、典型的に明治初期における恤救規則における「人民相互の情誼」による救済が国家的レベルで提唱された。したがって、社会福祉が主として戦後的産物であることは、社会福祉が制度として前近代的段階を克服した純近代的時代における救済制度であることが認識される。

さらに、近代における前近代の福祉の本質との比較と同様、脱近代（近代後）としての

「ポストモダン」としての日本社会の諸段階における救済制度の本質的な提示に関する考察が必要とされる。それが、「地域共生社会」の提示である。ポストモダンの「地域共生社会」の文言には、注意深く「社会福祉」の語彙的成分が回避されている事実が確認できる。ここに、地域共生社会における近代的社会に適合的な制度としての「社会福祉」が克服されている状況を確認できる。

その時、日本社会における近代社会に適合的な「社会福祉」は、まさしく日本近代においてのみ適合的であること、「社会福祉」の文言の回避されたポストモダンとしての「地域共生社会」は、すでに「社会福祉」的な制度の総称として機能していないことが確認される。そして、その本質は前近代的な「人民相互の情誼による救済」を国家レベルで提唱した「恤救規則」への本質的逆行的な移行であると考えられる。

以上の、日本社会における「前近代—近代—脱近代（ポストモダン）」の諸段階に即応する形での、「恤救規則—社会福祉—地域共生社会」の時代連続的的制度移行を確認できること、そして社会福祉の前後に位置する「恤救規則」と「地域共生社会」の本質が、近代特有の社会福祉の重要な本質であった「国家責任」の放棄の本質を潜在的に内包していると考えられることができる。

語彙の検証を行う時、事態は一層明晰化する。

「地域共生社会」において、「社会福祉」の語彙の持つ本質的成分が確認できない構造の巧妙を指摘しなければならない。

「地域共生社会」には、「社会」の語彙が存在する。しかし、その「社会」には「福祉」の部分に接続されていない。その代わりに存在する語彙的成分は「地域共生」である。この「地域」は「地域福祉」にも接続されていない。「福祉」の語彙が連続しないように設定されている。

そのかわり「福祉」的要素を想像させる「地域共生」の語彙成分が「社会」へと接続されることで、「社会福祉」あるいは「地域福祉」への連続を可能的潜在的な形で連想させる。しかし、そこで明瞭化される事態は、注意深く「福祉」の語彙と一見似ている語彙の代替的な使用によって、あくまで「福祉」の語彙の使用が回避されていることである。

「地域共生」は「福祉」的な内容を持つ表現であるが、「社会福祉」における「社会」が「地域共生」に置き換えられ、ここでも「社会」と「福祉」は分離されている。「地域共生社会」の提示が、「社会」と福祉の分断にあるかのようなようである。そして、共通項的に使用されている「社会」に接続されている語彙成分は、「福祉」的な印象を与える「地域共生」である。

このように、日本近代社会への適合性格を強く持つ「社会福祉」の要素は、文言表記の観点から回避され、継続的に用いられる「社会」の語彙は、「地域共生」の語彙の後部に充当される。その結果、近代社会に適合的であった「社会福祉」の語彙の本質の使用は回避され、脱近代的な段階にある日本社会において、「社会福祉」の本質の一つである国家責任の回避が胚胎されていることが認識される。